



第128号

Web Fairy Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第108回 WFP 作品展(再掲)
- ・ 第108回 WFP 作品展特別出題(再掲)
- ・ 第109回 WFP 作品展
- ・ Fairy of the Forest #58

結果発表

- ・ 第107回 WFP 作品展
- ・ フェアリー版くるくる作品展9

読み物

- ・ なし

(改訂:2019/2/21)



2019/2

はじめに

橋本孝治作

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						金			一
					王				二
				駒	歩				三
			歩	歩					四
歩	金	香		香					五
				金					六
				香					七
				桂					八
				龍					九

持駒 飛歩6

年賀詰お気に入り投票

毎年恒例で開催されていますおもちや箱の「年賀詰お気に入り投票」の結果が発表されました。

(詳細は右記記載の詰将棋おもちや箱の該当ページをご覧ください)

毎回、TETSU さんには WFP のちょっと早い年賀詰作品展も告知して頂いており感謝申し上げます。

今回の結果は、さすがと言いますか WFP 作品展担当でもある橋本孝治さんが1位となりました。(上記作品)おめでとうございます。これで通算10回目の1位となられ永世年賀王(?)の称号を得るとか得られないとか(笑)。毎回、難解ではなく趣向を凝らした初形や趣向手順を構築されており本当に感心するばかりです。一体いつ頃から創りはじめるのでしょうか? 私みたいに12月の半ばから慌てて創っているとは違うでしょうね。

とはいえ、今回は私の作品も5位にランクインし、加賀さんの作品と変寝夢さんの作品も11位と少しずつフェアリーにも注目が集まって来ているように思います。特に変寝夢さんの All_In_Shogi 協力詰は耳慣れないルールにも変わらず好評を博したのは嬉しかったです。

(今回紹介した作品は前号読者サロン掲載等に掲載しております。まだ解かれていない方は是非解いてみてください)

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことでも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第128号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん : takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々の HP アドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちや箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

占魚亭残日録

<https://sengyotei.hatenablog.com>

第108回WFP作品展(再掲)及び 第109回WFP作品展

担当：神無七郎

有吉澄男 作
詰将棋 11手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				科					三
							角		四
			ス	金			王	香	五
									六
			ス						七
									八
					科				九
							角		九

持駒 飛銀2桂
(詰将棋パラダイス,2006年3月)

34 銀 36 玉 35 飛 46 玉 58 桂 同と
56 金 同と 55 銀 同と 39 飛 まで 11手

上の図は有吉澄男氏の作品。半期賞を受賞し、「現代詰将棋・短編名作選」にも収録されている名作です。

今回の話は、この作品の7手目に45飛とする紛れについてです。作品に関する知識を白紙に戻し、以下の局面を初めて見せられたものとして、受方最長の手順を求めてください。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				科					三
							銀	角	四
			ス	金	飛			香	五
					王				六
									七
				ス	科				八
							角		九

持駒 銀

実際にこの図からの受方最長の手順を求めると、以下の通りになります。

36 玉 35 飛 27 玉 18 銀 26 玉 25 飛
36 玉 27 銀 37 玉 38 銀 36 玉 18 角 まで
12手 (計 19手)
この手順は余詰なのでしょうか？

少なくとも当時の結果稿にはまったく言及がありません。出題者・解答者全員がこの手順に気付かなかった可能性もないとは言えませんが、「迂回」と判断されたと考えるのが普通でしょう。

この手順で「27 玉」と赤字で示した箇所では、「46 玉」と逃げるができます。そして、この手順は作意と同じく「56 金 同と 55 銀 同と 39 飛 まで」で詰みます。つまり、45 飛からの4手はこの手順の中では「迂回」に過ぎないのです。ただ、受方最長則に従えばこの迂回手順ではなく、より手数長い「27 玉」の変化を選ぶしかありません。では、これは「迂回」なのでしょうか、「余詰」なのでしょうか？

この問題について考えるとき、参考になる概念に「嫌がらせ不成」があります。

駒が成っても成らなくても詰むとき、通常は「成」が作意に選ばれ、「不成」は「非限定」とされます。稀に「不成」で手数が延びることがありますが、大抵は作意と同様の手順に合流するので、「迂回」で済まされます。「不成」が「非限定」ではなく「嫌がらせ不成」と呼ばれるのは大抵このケースです。

ところが「嫌がらせ不成」で手順が大きく変わってしまうという、もっと「嫌」なケースがあります。具体例はいくつもありますが、おた葉一郎氏が「おた 葉一郎のしょーと・しょーと・えっせい」の2015年6月27日の記事 (<https://blog.goo.ne.jp/ota416/e/fa622f3cdae2c0e602a521b8f577d6c9>) で、簡素な原理図を示しているので、ぜひ一度ご覧ください。

こうした「嫌がらせ不成」がどこまで許容範囲なのか、明確な線引きはありません。不成とする駒が飛角歩（成った時の駒の性能が元の性能を包含する）の時は不問とするという話もありますが、これは規則ではありません。他の駒では認められないという規則もありません。

今回紹介した事例は、最長手順を選ぶと迂回手順から外れてしまう点で「嫌がらせ不成」に似ています。仮に命名するなら「嫌がらせ迂回」でしょうか。そして、これをどう扱えば良いのか明確な規則がないのも「嫌がらせ不成」と同様です。

普通詰将棋のルールは慣習に大きく依存しています。「不完全」と「キズ」はスポーツで言

例えば「レッドカード」と「イエローカード」に相当する概念ですが、その境界は必ずしも明確ではありません。人により、作品の内容により、判断にバラツキが生じます。時にはそれが論争の元になったりもしますし、今回紹介した事例のように、問題の存在さえ意識されないこともあります。そして、このような曖昧さは普通詰将棋のルールを元にフェアリー作品を作る際の障害になっています。

筆者がフェアリー用に「最善詰」を提案したのは、普通詰将棋のようにルールが個人の主観に依存してしまうことを避けるのが目的です。最善詰は普通詰将棋から必要最小限の要素のみを取り出したものなので、普通詰将棋で使われる附則を利用したい場合は「どのルールを加えるか」を明示する必要があります。この手続きを加えることで、人によってルール解釈の違いが生じるのを防ごうというわけです。

しかし、そのような「目的」は最善詰の持つ可能性を縛るものではありません。最善詰はそれ自体で一つの変則ルールとみなすことができます。そして今回の WFP 作品展では最善詰の変則ルールとしての性質を前面に押し出した作品が登場します。普通詰将棋と最善詰では何が違うのか、実際に解いて確かめてください。

前置きが長くなりましたが、今月の WFP 作品展の紹介に移りましょう。今月は第 108 回の再掲載分と第 109 回の新規出題です。第 108 回は神無太郎氏作の特別出題分もあるのでお忘れなく。難度も高く、出題数も多くて大変ですが、解けた分だけでもご解答ください。

第 109 回の出題数は 12 題。ツインや複数解を含むので、実質は 14 題分になります。短手数物が多いとはいえ、決して楽ではありません。十分に解図時間を確保して臨んでください。



〔第 108 回作品展各題への補足説明〕（再掲）

今回の第 108 回の出題は通常出題と特別出題に分かれています。特別出題については別項にまとめているので、ここでは通常出題分の説明を行います。

第 108 回通常出題分は全 12 題。内訳は一乗谷酔象氏 1 題、たくぼん氏 3 題、Pontamon 氏 1 題、高坂研氏 4 題、変寝夢氏 2 題、占魚亭氏 1 題です。

難問あり、新ルールありで、解答は大変かもしれませんが、どの作品も内容が充実しているので見逃すのは勿体ないですよ。

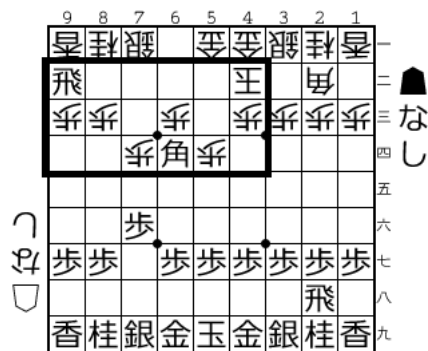
108-1 は一乗谷酔象氏の天使詰。「第 49 回神無一族の氾濫」第 5 番の「Newton's cradle」のバリエーションです。左右対称のようで左右対称でない初形、角と銀という 2 種の駒の類似と相違等、規則的な構成の「Newton's cradle」とは異なる路線の作品です。しっかり読みを入れ、紛れを乗り越えてください。

108-2～108-4 はたくぼん氏の協力自玉詰。3 題とも受方持駒制限があるので、初形にある使用駒のみで詰型を探さねばなりません。更に「石」（不透過・不可侵領域）を多数配した狭い回廊の中で、詰みに至る手順を探すわけですから、簡単には解けません。この 3 題が今回最大の難関だと思えます。

108-5 は Pontamon 氏の推理将棋ですが、「玉と両王手を掛けている 2 枚の駒で作る矩形面積が最小」という特徴的な条件が付いています。例えば以下のような図だと「矩形面積」は 18 となります。

〔例〕矩形面積

両王手最短手数の 9 手の終局図だと、42 の玉、92 の飛と 64 の角なので、42 から 94 までの矩形で 18 マス



ということで、まずは両王手を実現できる矩形面積の最小値とその形状を求めるのが先決で

すね。

108-6～108-9はWFP作品展では初登場となる高坂研氏の作品。「点鏡」という新ルールでの登場です。まずは、作者の投稿からルール説明の部分を引用しましょう。

この点鏡というのは、昨年麿飛龍君が考案した新しいフェアルールで、次のようなものです。

点鏡-55に関して点対称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。行き所のない駒はなく、その他のルールは通常の詰将棋に準ずるものとする。

なお、利き二歩有効か無効かについてはまだ取り決めがなされていませんが、今回投稿する作品を解図する上では特に支障は無い筈です。

敵味方問わず性能が変化するという一方で、対面系ルールと安南系ルールを合わせたような激しい性能変化が起こりそうなルールです。

文章だけではイメージを掴みにくいかもしいので、具体例をご覧くださいませ。

〔例題〕高坂研氏作

点鏡協力詰5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 金銀桂

13桂 11玉 22銀 12玉 **97金** まで5手

この図がただの協力詰なら「22銀 12玉 13金 まで3手」で詰みですが、「点鏡」ルールではこの手順の最終手に対し「97桂」や「97角」の受けが残っているため詰みになりません。この受けを消すために、直接王手ではなく性能変

化による王手を使うわけですね。あらかじめ配置していた駒の性能を変化させて玉を仕留めるのは「点鏡」ルールの基本手筋の一つと言えます。今回出題の4題では他にも「点鏡」の様々な手筋が楽しめると思います。

なお、今回は「利き二歩」の有効・無効については指定がありません。WFP作品展では「利き二歩有効」をデフォルト解釈（省略時解釈）としていますが、今回はどちらでも影響は無いはず。

（※追記）

ブログ等で告知した通り、108-6に余詰がありました。不詰ではないので解答募集は継続し、修正図は結果稿で紹介します。

108-10と108-11は変寝夢氏のAll-in-Shogi。相手の駒も動かせるので、108-10は1手詰ではありません。どちらの作品も「1手前の局面に戻すような着手は禁手」という規定を活用しているため、そこに留意して解図してください。

108-12は占魚亭氏の作品。前回に引き続き、Imitatorの使用だけでなく、AntiAndernachの条件が加わっています。もし解図に苦戦したら同氏の過去作や107回の結果稿を参考にしてください。

〔第109回作品展各題への補足説明〕

第109回通常出題分は全12題。ツインや複数解の作品を含むので実質的には14題です。内訳は神無太郎氏3題（実質4題）、占魚亭氏2題、青木裕一氏2題、変寝夢氏4題（実質5題）、Pontamon氏1題です。

前回初登場の「点鏡」ルールの作品や、フェアルールとしての「最善詰」の性質を前面に押し出した作品など、今回も個性的な作品が登場します。以下の補足説明を参考に着実に一作ずつ解いて行きましょう。

109-1～109-3は神無太郎氏のImitator作品。しかも玉以外の駒がすべて（受方の持駒も含め）中立駒になっているという設定の問題です。中立駒で中段玉を詰めるパターンは「第47回神無一族の氾濫」でも出てきたので、参考になると思いますが、今回はImitatorが加わっているので、更に一捻りあります。なお、109-2は持駒の枚数だけが違うツインになっています。できるだけ両方お答えください。

109-4と109-5は占魚亭氏の作品。前回の作品展で初登場した「点鏡」ルールの作品です。この2題の形は似ていますが、手順に関連がな

いので、ツインとしての出題ではありません。

109-6 と **109-7** は青木裕一氏の最善詰。この両題では最善詰を他のルールと組み合わせるのではなく、それ自体をフェアリールールとして扱っています。当然、手順も普通詰将棋では実現できないものです。なお、**109-6** では、「同手数駒余り」(同手数駒余り変化を、駒の余らない変化に比べて劣位の手順として扱う) というルールを適用します。

109-8～**109-11** は変寝夢氏の作品。レトロとリパブリカン、各2題です。レトロの方は受方持駒制限があるので、これをどう利用するかが重要です。単なる余詰防ぎなのか、それとも別の意味があるのでしょうか。

リパブリカンの方は「詰」ではなく「スタイルメイト」になっています。**109-10** は2解を求める作品ですので、なるべく両方の解を求めてください。もし解図に苦戦するようなら、自玉の出現位置にヤマを張って最初から自玉を置いた状態で解くのも良いでしょう。**109-11** は駒の消去を主に考えれば解きやすいと思いますが、収束はちょっと考えさせられるかもしれません。

109-12 は Pontamon 氏の推理将棋。**105-6** からのバリエーションだそうですが、もちろん手順はその作品とは異なります。解図時にあまり先入観を持たない方が良いでしょう。

解答要項

第108回分解答締切:2019年3月15日(金)
第109回分解答締切:2019年4月15日(月)
宛先: k7ro.ts@gmail.com (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)
解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月15日の投稿まで当月号に掲載します。)
宛先は解答と同じ k7ro.ts@gmail.com へ。
メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

ルール説明

※WFPのページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule97.pdf>) があるので、それも参考にしてください。

【天使詰 (最長協力詰)】

先後協力して最長手順で受方玉を詰める。(補足)

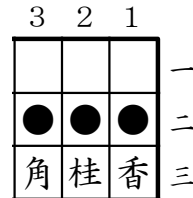
- ・悪魔詰と異なり不詰は避ける
- ・手順中に同一局面があってはならない (初形を含む)

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【石】 (●)

不透過・不可侵の領域を表す。飛び越すことは可能。



例えば左図で、
一 12香や11香成は不可。
二 22角や11角は不可。
三 11桂成や31桂成は可。

【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【点鏡】

55に関して点対称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

(補足)

- ・行き所のない駒はない

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【All-in-Shogi】

双方とも、自分の手番のときに相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも1手前の局面に戻すような着手は禁手とする。(WFP122号参照)

(補足)

- 1) 相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない
- 2) 相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる

【Imitator】 (■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出

たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

【AntiAndernach】

駒を取らない盤上の移動（駒を取る及び持駒を打つ以外の着手）を行うと、着手後に相手の駒となる（玉を除く）。

（補足）

・細則は **Andernach** と同様で「駒取り」を「駒を取らない盤上の移動」に読み替える。

- 1)駒を取らない盤上の移動で二歩になる場合相手の駒にならない
- 2)駒の向きの転換は成生の選択の後に行われ、成生の選択権は駒を取った側にある
- 3)駒を取らない盤上の移動の場合に限り、8段目への桂の不成、9段目への桂香歩の不成が可能（二歩の例外を除く）

【中立駒】（「**立**」あるいは「**n**駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。

（補足）

横向きの字か横に **n** を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1)中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる（利きが非対称な駒の場合に要注意）
- 2)中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3)中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4)中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5)二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6)中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7)中立駒でも自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

【受先】

受方から指し始める。

【最善詰】

攻方は受方がなるべく早く詰むよう王手を掛け、受方はなるべく詰まないよう応じる。

（補足）

・いわゆる普通の詰将棋から枝葉（無駄合概念や、駒が余るかどうかで手順に優劣を付ける規則）を取り除き、攻方最短を義務化したもの。攻方最短・受方最長のみが正解で、長手

数の余詰は不問。

【レトロ $-m/n$ 手】

m 手逆算して **n** 手で詰む手順を求める。

（補足）

- 1)特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2)協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数で逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先される。

【リパブリカン】

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。

（補足）

- 1)双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 2)詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
- 3)単玉の場合最終手を除き王手義務はない。自玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

【スタイルメイト】

王手は掛かっていないが合法手のない状態にする。

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。



<第 108 回>解答締切:2019 年 3 月 15 日(金)

■ 108-1 一乗谷酔象氏作
天使詰 137手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角2銀2歩

■ 108-2 たくぼん氏作

協力白玉詰 110手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※●:石 (着手不可、不透過)

■ 108-3 たくぼん氏作

協力白玉詰 130手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※●:石 (着手不可、不透過)

■ 108-4 たくぼん氏作

協力白玉詰 168手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※●:石 (着手不可、不透過)

■ 108-5 Pontamon 氏作

推理将棋

「同じ筋の連続着手は僕が一度だけ指して、11 手目の両王手で詰めたよ」
「この終局図では双方持ち駒が無いね。玉と王手している 2 枚の駒が入る矩形面積は両王手で最小だね」

[条件]

- 1) 11 手で詰み
- 2) 玉と両王手を掛けている 2 枚の駒で作る矩形面積が最小の両王手
- 3) 同じ筋への連続着手は先手が指した一度だけ
- 4) 終局時、双方とも持ち駒なし

■ 108-6 高坂研氏作

点鏡協力詰 3手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

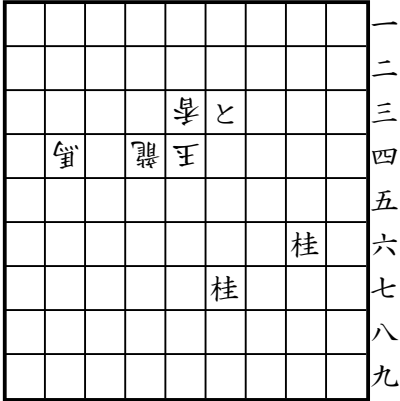
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

■ 108-7 高坂研氏作

点鏡協力詰 3手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

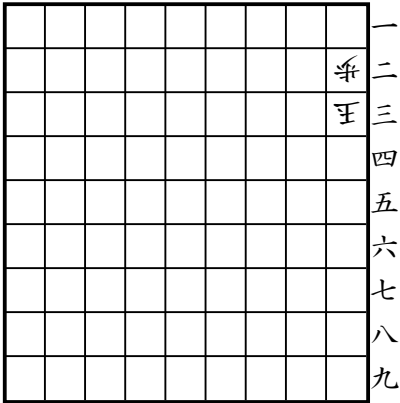


持駒 金

■ 108-8 高坂研氏作

点鏡協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

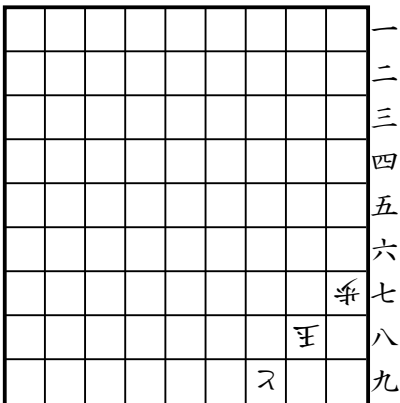


持駒 飛角

■ 108-9 高坂研氏作

点鏡協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

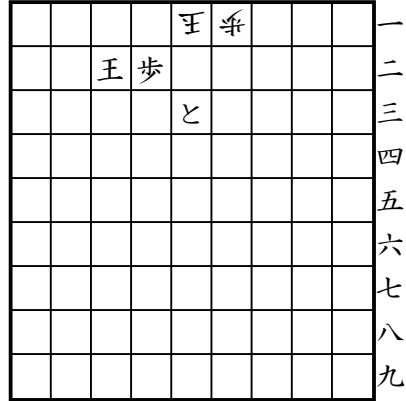


持駒 角2桂

■ 108-10 変寝夢氏作

All-in-Shogi協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

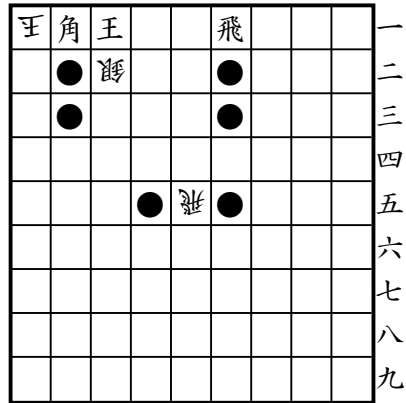


持駒 なし

■ 108-11 変寝夢氏作

All-in-Shogi協力自玉詰 10手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 桂3香4

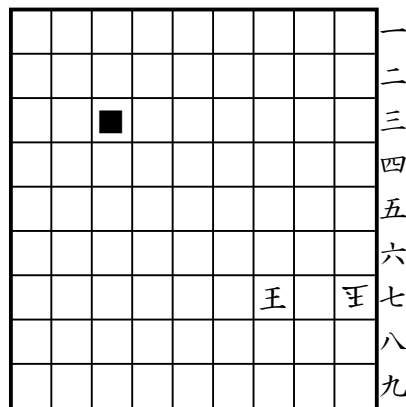
受方持駒 なし

※●:石 (着手不可、不透過)

■ 108-12 占魚亭氏作

AntiAndernach協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

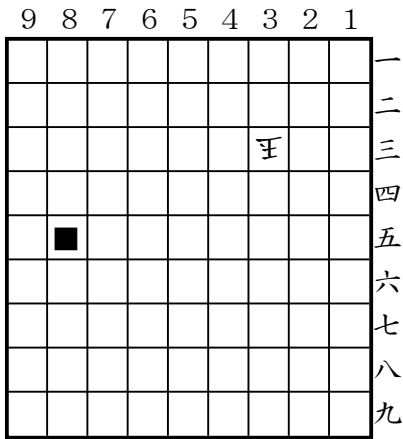


持駒 角

※■:Imitator

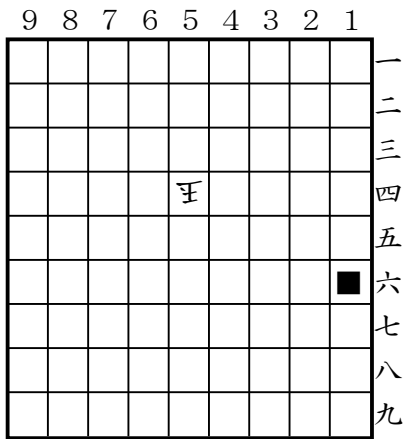
<第 109 回>解答締切:2019 年 4 月 15 日(月)

■ 109-1 神無太郎氏作
協力詰 5手



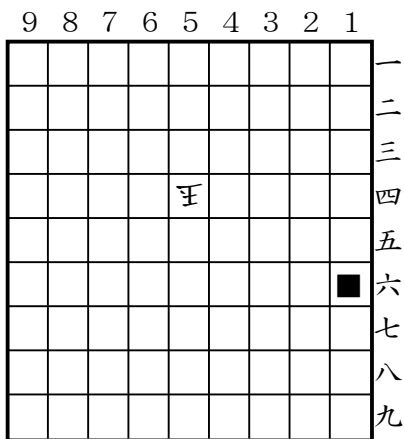
持駒 n角
※■:Imitator
玉以外はすべて中立駒

■ 109-2 神無太郎氏作
a) 協力詰 5手



持駒 n角
※■:Imitator
玉以外はすべて中立駒

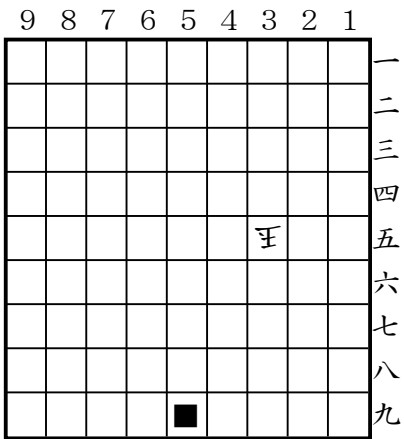
b) 協力詰 5手



持駒 n角2
※■:Imitator
玉以外はすべて中立駒

■ 109-3 神無太郎氏作

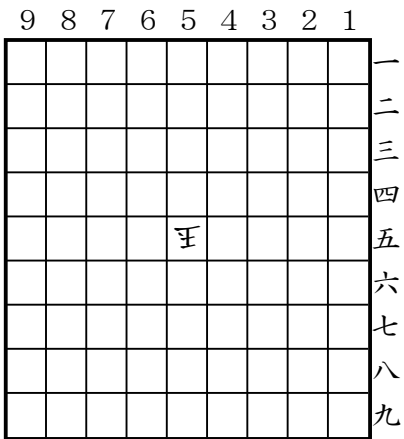
協力詰 7手



持駒 n角
※■:Imitator
玉以外はすべて中立駒

■ 109-4 占魚亭氏作

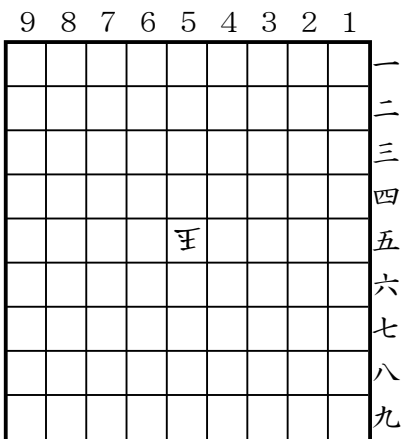
点鏡協力詰 4手 (受先)



持駒 角桂

■ 109-5 占魚亭氏作

点鏡協力詰 4手 (受先)



持駒 角銀

■ 109-6 青木裕一氏作

最善詰 11手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

			歩	科	歩		歩		一
			と			王	歩	銀	二
									三
				王				桂	四
									五
									六
							桂		七
							香		八
									九

持駒 なし

※同手数駒余りを劣位変化とする

■ 109-7 青木裕一氏作

最善詰 69手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								皇	一
							歩	と	二
						歩	歩		三
			と	銀					四
		ス	ス	科	歩			馬	五
			科			王			六
			歩	皇		科			七
									八
									九

持駒 角香

■ 109-8 変寝夢氏作

レトロ協力詰 -4+1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
						科			四
						歩	科		五
							王		六
									七
							角		八
							龍		九

攻方持駒 なし

受方持駒 角桂

■ 109-9 変寝夢氏作

レトロ協力詰 -6+1手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							皇	王	一
									二
							銀		三
									四
									五
								歩	六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 桂香

■ 109-10 変寝夢氏作

リパブリカン

協力自玉ステイルメイト 6手 ※2解

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
	馬					龍			四
									五
							王		六
									七
									八
									九

持駒 桂香

■ 109-11 変寝夢氏作

リパブリカン

協力自玉ステイルメイト 28手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							王		一
								皇	二
							歩		三
						歩			四
						歩			五
	桂		歩						六
		歩							七
	歩								八
	金								九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

■ 109-12 Pontamon 氏作

推理将棋

「観戦してた対局は、駒成なく 13 手で詰んだってね」
 「うん、対局者の一方は、飛を引く手を指したよ」
 「対戦相手は？」
 「歩以外のひとつの駒を同じ筋で 4 回指したよ」

[条件]

- 1) 駒成なく 13 手で詰み
- 2) 対局者の一方は、飛を引く手を指した
- 3) 他方の対局者は、歩以外のひとつの駒を同じ筋で 4 回指した

以上



「第 50 回神無一族の氾濫」投稿作品募集

「第 50 回神無一族の氾濫」への参加を募ります。今回のお題は「**対称性**」です。

初形や詰上りが左右対称の作品、手順が前後対称の回文詰、キルケ等の左右非対称のルール、左右非対称の利きを持つ駒を使った作品など、解答者に対称性を強く印象付ける作品を募集します。対称性は左右に限らず、斜対称、点対称などでも構いません。

また、1 題通常の協力詰（ばか詰）を募集します。今回のお題に該当する作品であれば、優先して採用します。

作品要件	対称性を主題とした作品
募集締切	2019 年 4 月 14 日（日）
募集作品数	4 + 1（ばか詰枠）
送り先	神無七郎（k7ro.ts@gmail.com） 上記宛先へ E-mail でお送りください。
備考	1 人何作でも投稿可。採否は 4 月 21 日までに通知します。



第108回WFP作品展特別出題

担当：神無七郎

ここでは神無太郎氏から投稿された作品を特別出題します。

神無太郎氏は第103回で数学と関連した作品を発表されましたが、今回は更に数学色が強く、解図に先立ち、ある数学の問題を解かねばなりません。いわば「数学+詰将棋」です。

盤上だけに集中したい方にとっては手を出しにくい問題ですので、通常の出題とは分け、特別出題とすることにしました。特に学生の皆さんには、学力向上のためにも、ぜひこの問題に挑戦していただきたいと思います。もちろん社会人の皆さんも、頭の錆を落とすため、今回の解図に挑戦することをお勧めします。

まずは、今回の作品で使われる2つのフェアリー駒の紹介です。

【Q(n)-Leaper】(Qn)

nは任意の自然数で、以下で定義される複合八方桂。

$a_1, a_2, a_3, \dots, a_n$ がすべて異なる数で、n個のxについての2次方程式

$$x^2 - a_1x + a_2 = 0$$

$$x^2 - a_2x + a_3 = 0$$

$$x^2 - a_3x + a_4 = 0$$

...

$$x^2 - a_nx + a_1 = 0$$

のそれぞれの解 $(b_1, c_1), (b_2, c_2), (b_3, c_3), \dots, (b_n, c_n)$ がすべて自然数のとき、

$$Q(n)\text{-Leaper} = (b_1, c_1)\text{-Leaper} + (b_2, c_2)\text{-Leaper} + (b_3, c_3)\text{-Leaper} + \dots + (b_n, c_n)\text{-Leaper}$$

$a_1, a_2, a_3, \dots, a_n$ の組が複数ある場合には、それぞれで定義されるQ(n)-Leaperをすべて複合したものとする。

【P(n)-Leaper】(Pn)

nは任意の自然数で、 $n=ab$ となる自然数a、bを用いて定義される(a,b)-Leaperの複合八方桂。

まずは、説明が簡単なP(n)-Leaperから。

これは与えられたnを因数分解して、利きを割り出します。いくつか具体例を見ましょう。

例：

$$P(1)\text{-Leaper} = (1,1)\text{-Leaper}$$

$$P(2)\text{-Leaper} = (1,2)\text{-Leaper} (= \text{Knight})$$

$$P(3)\text{-Leaper} = (1,3)\text{-Leaper}$$

$$P(4)\text{-Leaper} = (1,4)\text{-Leaper} + (2,2)\text{-Leaper}$$

$$P(5)\text{-Leaper} = (1,5)\text{-Leaper}$$

$$P(12)\text{-Leaper} = (1,12)\text{-Leaper} + (2,6)\text{-Leaper} + (3,4)\text{-Leaper}$$

P(2)はいわゆる八方桂(騎)で、お馴染みの駒になりますね。nが素数だと話は単純ですが、合成数の場合は、跳び先がたくさん出てきます。

ややこしいのはQ(n)-Leaperです。

これは異なるn個の自然数を係数に使った所定のn個の二次方程式を作り、その解がすべて自然数の場合に、その解で利きを構成します。用があるのは「係数」の方ではなく、「解」の方だということに注意しましょう。

定義だけではイメージが湧きにくいと思うので、例題をご覧くださいませ。

【例題1】神無太郎氏作

協力白玉スタイルメイト8手

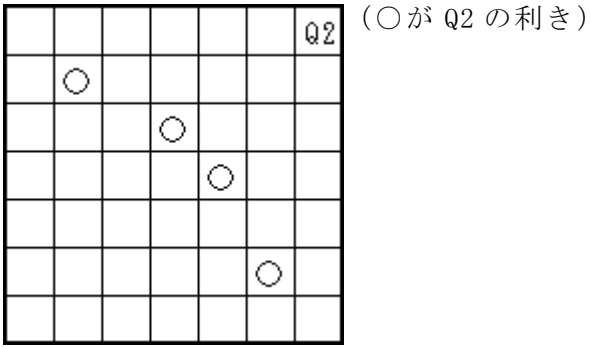
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									Q1	一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 銀4

※Q1:Q(1)-Leaper 王

銀を捨てて玉を呼び出し、攻方 Q1 王が動け



今度は利きが求まった後も、割と手応えのある解図プロセスが楽しめそうですね。解答は本稿末尾に掲載しますので、自力で解きたい方は解図してから次のページにお進みください。

それでは、いよいよ本題です。解答募集作品は 2 題。両題共 Q(n)-Leaper の方は「玉」ですが、P(n)-Leaper の方はただのフェアリー駒です。この 2 題を解いた後、余裕のある方は、一般の素数で Q(n)-Leaper の利きがどうなるかについても考えてみてください。

なお解答締切は第 108 回 WFP 作品展の通常出題分と同じです。

ルール説明

【協力白玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト（王手は掛かっていないが合法手のない状態）にする。

【成禁】

詰手順中に駒を成る手があってはならない。

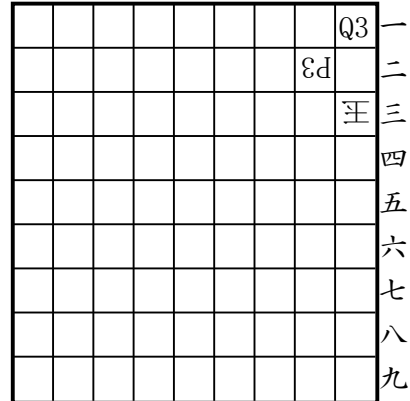
【左下無限盤】

拡大盤の一種。左及び下方向に無限に広がった盤を使う。

【Q(n)-Leaper】(Qn) ※本文参照

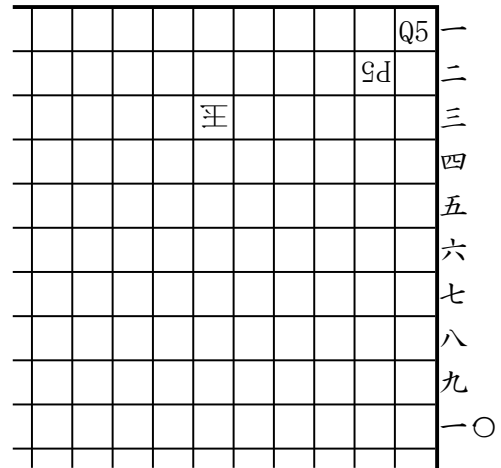
【P(n)-Leaper】(Pn) ※本文参照

■ 108-sp1 神無太郎氏作
協力白玉スタイルメイト 10 手
9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 飛香2
※Q3:Q(3)-Leaper 王
P3:P(3)-Leaper

■ 108-sp2 神無太郎氏作
左下無限盤成禁
協力白玉スタイルメイト 10 手
10 9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 角銀2
※Q5:Q(5)-Leaper 王
P5:P(5)-Leaper

以上

【例題 2 の解答】

57 角 46 飛 33 角 同玉 66 角 同飛
まで 6 手

(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								Q2	一
									二
						王			三
									四
									五
			飛						六
									七
									八
									九

持駒 なし



Fairy of the Forest #58 出題

- 2018年12月20日：課題発表：(協力詰)
「自由課題」
- 2019年02月15日：投稿締切
- 2019年02月20日：出題
- 2019年03月15日：解答締切
- 2019年03月20日：結果発表

■ 出題

たくぼん氏から久しぶりに複数投稿。また、青木氏から1作。これでやっと3作ですが、最近はずっとこんなもの。

02・03はやや手数が長いですが、そのぶん解き応えもあると思うので、ぜひ挑戦してみてください。1題でも解けた方はご解答をお願いします。

(解答先)
→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

■ 58-01 たくぼん 協力詰 7手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一										
二										
三										
四										
五										
六				銀	王					
七					龍					
八				龍						
九										

持駒 銀香

■ 58-02 たくぼん 協力詰 49手

受方持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一										
二										
三										
四					龍	金	金	香		
五				皇		香	香	王		
六					馬	と				
七				桂				手		
八				桂			又			
九				桂	玉					

持駒 歩11

■ 58-03 青木裕一 協力詰 53手

受方持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一										
二										
三										
四				歩		香	桂	と		
五				と	桂	皇	桂			
六				又	桂	又	王	歩	龍	
七				皇					龍	
八				手	香				玉	
九						又	又			

持駒 歩9

第107回WFP作品展結果

担当：神無七郎

第 107 回 WFP 作品展の結果を報告します。
 今回の出題は全 12 題。解答者数は 7 名。全題
 正解者なし。解答の内訳は以下の通りです。

〔第 107 回 WFP 作品展成績〕 (敬称略)

○:正解 ×:誤解 -:無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
たくぼん	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	11
占魚亭	-	○	○	○	-	○	○	○	○	-	-	-	7
一乗谷酔象	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	4
変寝夢	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	4
井上順一	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	2
はなさかしろう	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Pontamon	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

今回は期末ということで、解答募集期間が通常より一ヶ月長かったのですが、解答増には繋がりませんでした。たくぼん氏は全題正解に最も肉薄したのですが、**107-5** に阻まれ全解ならず。結局 **107-5** には作者以外の正解者は現れず、実質正解者ゼロでした。**108-1** でも一乗谷酔象氏の天使詰長編が出題されているので、**107-5** が解けなかった方も、ぜひこちらにチャレンジしてください。

■ 107-1 Pontamon 氏作 (正解 4 名)

推理将棋

「11 手で詰めたって？」
 「うん、最終手の 5 段目での飛成は初の駒成だったよ」

【条件】

- 1) 11 手で詰み
- 2) 最終手の 5 段目での飛成は初の駒成

【ルール】

• 推理将棋

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

【解答】

76 歩 44 歩 同角 42 飛 53 角生 44 飛
 同角生 72 銀 53 飛 62 玉 55 飛成 まで 11 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科		季		季	爵	科	皇	
二			爵	王				皇		
三	季	季	季	季			季	季	季	
四						角				
五					龍					
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

攻方持駒 歩2
 受方持駒 なし

【作者のコメント及び解説】

「最終手は 5 段目の飛不成」でも良いのだが、正解者ゼロを目指して飛成にした。飛成の隣の筋の 4 段目玉の形が浮かぶはず。

手掛かりはひとつ、5 段目での飛成。その飛は 1～3 段目から動いたのは確実で、初形の 3 段目の歩は無いはず。あとの手掛かりは「どうせ今回も空き王手だろう」か？

冗談はさておき、短手数では使いにくい飛の手がヒントになる。自陣の飛を 5 段目で成るには、2 筋の歩の突き合いから飛が出て、▲23 飛不成のあとの 9 手目に▲25 飛成が可能なのと、▲68 飛、△34 歩、▲66 歩、△同角、▲同飛のあとに▲63 飛不成をしてから 9 手目に▲65 飛成ができる。2 筋よりはこちらの方が良さそう。取った角を 9 手目に打って飛成の紐にしなごら玉の退路封鎖にでも使えればと思ってもうまく行かない。

となると、飛は後手の飛を入手して使うことになる。後手の飛は最短で 5 手目に入手可能だが、そのあとに飛を打つ手と最終手で飛成の着手をすることが必須なので、結局、残り手数は 1 手。

飛を取った時の角(馬)が残っているとして、それが飛成の紐として使えるとすれば、どの地点で飛を取るのが良いのか？

普通なら、▲76 歩、▲55 角、▲82 角不成の 82 地点とか▲76 歩、▲33 角不成、▲42 角不成や▲96 歩、▲97 角、▲42 角不成の 42 地点、あるいは▲76 歩、▲44 角、▲62 角不成の 62 地点で飛を入手するのだが...

本作では最短手数で後手飛を取るのではな

く7手目に 44 地点で飛を取って、その時の角を有効利用する手筋になっている。

たまたま、後手飛を取った角の利きが飛成の紐になっている配置なので、空き王手から考えなくても解けてしまうかもしれない。

「最終手は6段目の飛成」や「最終手は6段目の飛不成」の条件だと空き王手が見え見えなので、たまたま解けてしまっても5段目の条件にするのが作図としては正解だと思う。

【解説】

極端に条件の少ない推理将棋。

与えられた情報は 11 手で詰んだこと、最終手は五段目の飛成だったこと、最終手以外に成がなかったということの3つだけです。これだけ情報が少ないと、ヤマが当たるかどうかで解図時間に大きな差が出てきます。

最も重要なのはやはり最終手。これが直接的な王手なのか、開き王手による間接的な王手なのかの見極めです。

初手 76 歩はほぼ確実なので、直接王手による詰上りを想定すると、最終手は 75 飛成が最有力です。しかし直接王手をするためには後手玉が飛の近くまで出張しないとイケないので、手数が掛かってしまいます。

その点、開き王手ならば後手玉があまり動く必要がありません。そのため、先手が手数を掛けて飛を取るのではなく、後手が手数を掛けて飛を渡すことができ、全体的な手数を削減できます。

飛を手早く渡す手段は、いわゆる「パックマン戦法」。初手 76 歩に対し、2 手目 44 歩と歩をただで差し出すあの奇襲戦法です。この戦法が推理将棋で飛を手早く渡すのにも役立つとは目から鱗が落ちる思いです。72 銀の片美濃囲いが実戦さながらなもの、「将棋」らしくて良いですね。

念のため、最終手が「すかし詰」でないことも強調しておきましょう。本作の最終手は「すかし詰」ではありません。それどころか、後手に歩が1枚でもあると歩合をして不詰です。こうした「合駒なし」の詰上りは普段あまり目にする事がないので、盲点になり易いと思います。正解者も開き王手をしてから合駒がないことに気付いたのではないのでしょうか。

【短評】

たくぼんさん

作例は少ない詰上りでしょうか？

1 条件で成立は見事。

Pontamon さん

正解者ゼロを目指したけど、結果はどうなったのか。

☆むしろ今回の作品展では解答者数が多い方になりました。自作の難易度を客観的に評価するのは難しいですね。

はなさかしろうさん

簡潔な条件とぎりぎりであつれを躲すスリルが素晴らしい。中段玉を相当読みましたが 1 手足りないんですね。Pontamon さんの作品ということを考えて空き王手を先に読むべきでした。手順前後も利かない緻密な解で、解けて良かったです。

一乗谷酔象さん

中段玉の詰みを考えたが届かず。

"作風による推理"頼りでした。



■ 107-2 神無太郎氏作（正解 4 名）

対面協力詰 9 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
角	角								二
									三
									四
									五
									六
									七
							王		八
飛									九

持駒 歩4

【ルール】

• 対面

敵駒と向かい合ったとき、互いに利きが入れ替わる。

• 協力詰

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【解答】

29 歩 同玉 83 歩 39 玉 93 歩 48 飛

49 歩 28 玉 29 歩引生 まで 9 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
角	角								二
歩									三
									四
									五
									六
									七
						飛	王		八
飛				歩		歩			九

持駒 なし

【解説】

「打歩詰」は禁手だが「突歩詰」は禁手ではない——誰がどういう理由でそう決めたのかは分かりませんが、将棋のルールはそうになっています。そしてフェアリーにもそのルールは受け継がれています。ただし、フェアリーでは歩は

前にだけ進むとは限らないので、「突歩詰」は「動歩詰」に一般化されます。

本局はそんな「動歩詰」の詰上りに、「最終手歩不成」という味付けを加えたものです。

普通詰将棋では「最終手歩不成」の作品は作れません（※注：これは将棋の駒の性能が「最終手歩不成」を実現するのに向いていないためであり、フェアリー駒を使えば、それ以外は普通詰将棋のルールのままでも実現は可能ですが、対面では利きの削減のため、「最終手歩不成」が可能になります）。

それまでの手順では、4 手目すぐに合駒せず、力を溜める 39 玉が重要な一手です。6 手目には歩を支えるための飛合を出現させ、準備万端整ってから派手に歩を飛ばして「不成動歩詰」を実現します。92 角は歩の性能になっているので、当然ながら 29 歩を取ることはできません。玉は歩の性能なのでこれで詰みです。

「対面」の流行期は主に 1990 年代。今となってはむしろ素朴に感じられるルールですが、流行の最先端ではなく、昔に戻ってレトロな雰囲気を出すのもたまには良いですね。

【短評】

占魚亭さん

初手・最終手ともに 2 九歩。

シンプルで分かりやすい好編。

変寝夢さん

4 8 飛を見つけてスッキリ。

最終手の表記は笑ってしまいます。

たくぼんさん

歩引生というめったにない指し手の詰上りですね。

☆「歩引不成」または「歩引生」はフェアリーならでは。「伝統的表記」というより「伝統風表記」ですね。

本局を f m に解かせると「29 歩引生」と出力してくれるので、細かいところまで良く作り込まれていることに感心させられます。

一乗谷酔象さん

2 枚の角に導かれるように 83 歩～93 歩。



■ 107-3 神無太郎氏作 (正解 2 名)

PWC協力自玉スタイルメイト 10 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
							王		二
								王	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 香

【ルール】

• スタイルメイト

王手は掛かっているが合法手のない状態にする。

• 協力自玉スタイルメイト

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

• PWC

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。(駒位置の交換となる)。

(補足)

戻り方等は以下の細則に従う

- 1) 駒の成・生の状態は維持されたまま位置交換される。
- 2) 位置交換の結果、相手駒が二歩になったり、行きどころのない駒になる場合は、通常の駒取りと同じで、盤上に戻らず、自分の持駒になる。
- 3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。

【解答】

36 香 35 角 同香/36 角 34 銀
 同香/35 銀 33 飛 同香成/34 飛 同飛/34 杏
 23 杏 21 玉 まで 10 手

(最終形)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
									二
						香	杏	王	三
									四
						香			五
						銀			六
									七
									八
									九

持駒 なし

【解説】

神無太郎氏は「第 49 回神無一族の氾濫」で多玉の PWC 協力自玉スタイルメイトを発表されていますが、これはその姉妹作的な作品です。この号が発行される時点ではまだ結果発表されていませんが、香を使って合駒を発生させ、PWC の駒位置交換で適切な位置に移動させて攻方玉の退路を封鎖する構成が共通しています。

ただ、PWC でスタイルメイトを目指す場合、問題になるのは「駒が消えない」ことです。そのため、自玉の退路を封鎖するだけでなく、香をどう処理するかという問題が残ります。

「氾濫 49」の作では、「自玉への王手の禁止」を使って香を動けなくするのですが、本局はその方針では解けません。

7 手目から 2 手使って、香を成香に変換するのが意外な解決法。一見、スタイルメイトにするのを難しくするだけに見える手ですが、香が斜めに進めるようになったので、飛と自玉の間に入り込めば飛で自身をピン止めして貰えるのです。

最終形をご覧ください。成香で飛を取る手は自玉への王手になるため指せません。もちろん、冒頭 4 手で登場した角銀合は打ち場所も種類も限定ですし、初手の香の打ち場所も限定されています。

小駒は成ると金の利きになって個性が消えてしまうのですが、本局はそのルールを上手く利用して(もし「成ると金の利きが加わる」というルールだったら、最終手の 21 玉ができない)、心理的な盲点を突いた「成らせ」を実現した作品だと思います。

【短評】

占魚亭さん

初手の打ち場所さえ分かれば、ですね。

変寝夢さん（※無解）

初手 3 9 香に香、桂連続合に決め打ち投了。
最初の6手は意外と常識的で、びっくり。後
ろ4手はそれだけで出されても発見できま
せんが。

たくぼんさん

8手目の同飛/34成香の1手に小考でした。

一乗谷酔象さん（※無解）

パラ氾濫 49-2 で予習済みと思ったら2段玉
が扱いにくかった。

☆一乗谷酔象氏は「氾濫 49」で全題正解をされ
ているのですが、その知識が却って解図の妨
げになってしまったのかもしれませんが。

■ 107-4 たくぼん氏作（正解3名）

禁欲協力詰 73手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	香	一
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	二
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	三
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	四
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	五
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	六
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	七
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	八
王		ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	九

攻方持駒 金31
受方持駒 なし

【ルール】

・禁欲

駒を取らない手を優先して着手を選ぶ。

【解答】

89 金 同玉 99 金 同と左 88 金 同玉
89 金 同と左上 78 金 同玉 88 金 同と左
77 金 同玉 78 金 同と左上 67 金 同玉
77 金 同と左 66 金 同玉 67 金 同と左上

56 金 同玉 66 金 同と左 55 金 同玉
56 金 同と左上 45 金 同玉 55 金 同と左
44 金 同玉 45 金 同と左上 34 金 同玉
44 金 同と左 33 金 同玉 34 金 同と左上
23 金 同玉 33 金 同と左 22 金 同玉
23 金 11 玉 22 金打 同と左 12 金打
同と引 22 金 同玉 23 歩 11 玉 22 金
同杏 同歩成 同と左 13 香 12 金 同香生
21 玉 11 金 まで 73 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	王	金	一
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	香	二
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス			三
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	四
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	五
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	六
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	七
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	八
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	九

持駒 なし

【作者のコメント】

考え所は右上だけという代物です。
シンプルなこちら（「フェアリーの冗談V」を
思い出す初形です。）と迷ったのですが、上記で。

禁欲協力詰 63手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス		一
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	二
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	三
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	四
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	五
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	六
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	七
王	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	八
	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	九

持駒 金30

【解説】

盤が駒で埋まっっていてほとんど空所がない初
形。右上隅に成香と空きマスがあるので、と金
を動かして道を開けながら、ここに玉を運ん

でいくスライドパズルだろうと予想がつきます。「禁欲」という条件が付いていますが、最初のうちはあまり関係もなさそうです。

少し迷うのは2手目「同玉」か「同と右」か。でも目的地に早く着くことを考えれば、素直な「同玉」を選ぶのが自然でしょう。同じように目的地に早く着くことを優先すると、自然と玉鋸が出現します。

ほぼ一本道で収束まで到達。本格的に「禁欲」が絡み出すのは49手目からです。

〔途中図〕 48手目の局面

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	♀		一
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	二
ス	ス	ス	ス	ス	ス	♁		ス	三
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	四
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	五
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	六
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	七
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	八
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	九

攻方持駒 金7

ここで23金に対し、「同と右」か「同玉」かは簡単には決められません。

実際に読んでみると「同と右」なら「32金 同玉 33金 同と左上 …」のように進みますが、横からの攻めになってしまい、うまく行きません。と金は取っても歩にしかならないので、縦から攻める展開にしなくてははいけないのです。

作意の「同玉」が分かっても、成香の入手は簡単にはいきません。「禁欲」の条件があるので、59手目すぐに22同金とはできず、12金打で空所を埋めてから、やっと22とをはがすことができます。これでやっと成香を入手することができます、収束に辿り着きます。

作者は素朴な趣向のまま終わらせる別案との比較で迷ったようですが、考え所がある本図を選ぶのは、やはり作風と言えそうです。

本局は盤面がと金で埋まっているのですが、他の駒を混ぜると、もっと複雑なスライドパズル型作品が作れます。例えば Onsite Fairy Mate 第157回出題(2010年3月17日)の雲海氏作がその代表例です。

雲海氏作

協力詰 861手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
飛	角	飛	香	香	香	飛	角	金	一
飛	飛	角	角	香	角	飛	角	飛	二
角	桂	飛	金	飛	飛	飛	角	飛	三
角	桂	香	飛	飛	香	角	角	角	四
角	象	香	香	角	桂	香	銀	飛	五
桂	桂	香	香	桂	桂	香	銀	飛	六
桂	桂	香	飛	桂	角	桂	象	象	七
歩	歩	歩	香	歩	象	歩	象	象	八
ス	ス	玉		ス	ス	ス	ス	ス	九

持駒 象431

※象:酔象

(Onsite Fairy Mate、2010年3月17日)

この作品は中将棋の酔象(直下以外の周囲7マスに動ける駒)を使ったスライドパズルですが、その難解さは超弩級。易しい趣向を目指すか、難解なパズルを目指すか、それとも別の何かを目指すか…作者の志向により様々な表現形態があり得る分野だと思います。

【短評】

占魚亭さん

金捨てで(完全ではないけれど)玉鋸の道筋を作る。楽しかったです!

変寝夢さん(※無解)

- 8 9金、同玉、9 9金、同と左上、
- 8 8金、同玉、8 9金、同と左上、
- 7 8金、同玉、8 8金、同と左上、
- 7 7金、同玉、7 8金、同と左上、
- 6 7金、同玉、7 7金、同と左上、
- 6 6金、同玉、6 7金、同と左上、
- 5 6金、同玉、6 6金、同と左上、
- 5 5金、同玉、5 6金、同と左上、
- 4 5金、同玉、5 5金、同と左上、
- 4 4金、同玉、4 5金、同と左上、
- 3 4金、同玉、4 4金、同と左上、
- 3 3金、同玉、3 4金、同と左上、
- 2 3金、同玉、3 3金、同と左上、
- 2 2金、同玉、2 3金、同と左上、
- 1 2金、同と引、1 3金、1 1玉、
- 2 2金打、同杏、同金、同と、

- 1 3香、1 2金、同香生、2 1玉、

1 1金までを読んで、おかしいなと思ったら金が一枚足らなかった。

2 3金、1 1玉はやりにくいですねえ。

初形4 3と5 4を歩にして(2 1はとでもいい)、持駒を金3 2枚でも一作かな。

☆上記手順の56手目「同と左上」は「禁欲」なので指せませんね。趣向手順に乗ると、惰性で手を進めてしまい易いので要注意です。

たくぼんさん

考えるところは最後だけですが、まあちょっとした遊び心です。

Pontamonさん (※無解)

フェアリー駒も無く、唯一解けるかもしれないと思ったのだが。

玉鋸でも周辺移動でも、右上へ行くと空きマスが2つになり、禁欲では成香やと金を取るよりも空きマスへ金を打つ玉手が優先されるためどうにもならない。

そもそも持ち駒の金は31個なのに73手だと残り11手のカラクリが分からないので解けるわけもなく...

一乗谷酔象さん

13地点をこじ開けるのが鍵。

55手目23金の後は3筋に触らないこと。



■ 107-5 一乗谷酔象氏作 (正解1名※実質正解者なし)

天使詰 101手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

							香	銀	角	一
					科				銀	二
						歩	歩	歩	玉	三
					馬				玉	四
						香				五
							王	駒		六
					駒					七
										八
										九

持駒 飛桂

【ルール】

• 天使詰 (最長協力詰)

先後協力して最長手順で受方玉を詰める。(補足)

- 悪魔詰と異なり不詰は避ける
- 手順中に同一局面があってはならない (初形を含む)

【解答】

34 飛 24 飛 同飛 同玉 25 飛 14 玉
 15 飛 24 玉 13 飛成 同玉 15 香 14 飛
 同香 同玉 34 飛 24 香 同飛 13 玉
 15 香 14 飛 同香 24 玉 25 飛 14 玉
 15 飛 24 玉 25 飛 13 玉 15 飛 14 飛
 22 角生 24 玉 14 飛 同玉 34 飛 24 飛
 同飛 同玉 13 角生 14 玉 34 飛 24 香
 同飛 13 玉 15 香 14 飛 同香 24 玉
 25 飛 14 玉 15 飛 24 玉 25 飛 13 玉
 15 飛 14 飛 同飛 同玉 34 飛 24 飛
 同飛 13 玉 15 飛 14 香 25 桂 24 玉
 14 飛 同玉 13 桂成 同玉 15 香 14 飛
 同香 同玉 34 飛 24 香 同飛 13 玉
 15 香 14 飛 同香 24 玉 25 飛 14 玉
 15 飛 24 玉 25 飛 13 玉 15 飛 14 角
 同飛 同玉 36 角 25 香 同角 13 玉
 15 香 14 金 同香 24 玉 15 金 まで 101手

解1

A B 13飛成 同玉 C D
 15飛 14香 25桂打 24玉 14飛 同玉
 13桂成 同玉 C D F G まで 67手.

解2

A B 13飛成 同玉 15香 14飛 同香 24玉
 B 25飛 13玉 E 34飛 24飛 同飛 13玉
 15飛 14香 25桂打 24玉 14飛 同玉
 13桂成 同玉 C D F G まで 67手.

【参考図3】

6	5	4	3	2	1	
			香	銀	角	一
		桂			銀	二
			歩	歩	皇	三
		馬			王	四
			香			五
				玉	將	六
		將				七

持駒 飛

参考図3は107-5出題図から持駒の桂を除いたものである。

参考図1に比べると32手延び、収束で枝分かれする手順があるため2解ある。

解1

A B 13飛成 同玉 C D
 15飛 14飛 22角生 24玉 14飛 同玉
 A 13角生 14玉 34飛 24飛 同飛 13玉
 14飛 同玉 D F G まで 73手.

解2

A B 13飛成 同玉 C D
 15飛 14飛 22角生 24玉 14飛 同玉
 A 13角生 14玉 D E 34飛 24角 同飛 13玉
 14飛 同玉 G まで 73手.

参考図1から持駒の桂を増やした参考図2では26手延び、参考図1から11角を増やした参考図3では32手延びる。

では、持駒の桂と11角を増やした出題図ではどうだろうか。

41手+26手+32手=99手となりそうなもの。実際、出題図で角より桂を先に使う手順では99手となる。

(参考)桂を先に消費する順

参考図2の前半2手順と参考図3の後半2手順の組み合わせで4通り。

99手解1

A B 13飛成 同玉 C D
 15飛 14香 25桂打 24玉 14飛 同玉
 13桂成 同玉 C D
 15飛 14飛 22角生 24玉 14飛 同玉
 A 13角生 14玉 34飛 24飛 同飛 13玉
 14飛 同玉 D F G まで 99手.

99手解2

A B 13飛成 同玉 C D
 15飛 14香 25桂打 24玉 14飛 同玉
 13桂成 同玉 C D
 15飛 14飛 22角生 24玉 14飛 同玉
 A 13角生 14玉 D E 34飛 24角
 同飛 13玉 14飛 同玉 G まで 99手.

99手解3

A B 13飛成 同玉 15香 14飛 同香 24玉
 B 25飛 13玉 E 34飛 24飛 同飛 13玉
 15飛 14香 25桂打 24玉 14飛 同玉
 13桂成 同玉 C D
 15飛 14飛 22角生 24玉 14飛 同玉
 A 13角生 14玉 34飛 24飛 同飛 13玉
 14飛 同玉 D F G まで 99手.

99手解4

A B 13飛成 同玉 15香 14飛 同香 24玉
 B 25飛 13玉 E 34飛 24飛 同飛 13玉
 15飛 14香 25桂打 24玉 14飛 同玉
 13桂成 同玉 C D
 15飛 14飛 22角生 24玉 14飛 同玉
 A 13角生 14玉 D
 E 34飛 24角 同飛 13玉 14飛 同玉
 G まで 99手.

なお、角を先に使う順の99手解は10通りあり。

101手作意解をあらためて参考図の手順と比較すると

「A B 13飛成 同玉 C D
 15飛 14飛 22角生 24玉 14飛 同玉
 A 13角生 14玉 D E」

前半は参考図3の解2の手順を辿り参考図2の解2の手順に繋がる。

59手目以降「34飛 24飛 同飛 13玉 15飛 14香 25桂打 24玉 14飛 同玉 13桂成 同玉 C D F G」まで101手

101手解の初手～59手目34飛迄は参考図3(解2)と同一手順である。

また、101手解の45手目15香以降は参考図2(解2)の11手目以降と同一手順である。

45手目～59手目の15手は両者の手順が重複しており、手数計算は59+57-15=101手となる。

参考図3の解2

A B 13飛成 同玉 C D

15飛 14飛 22角生 24玉 14飛 同玉

A 13角生 14玉 D E 34飛 24角 同飛 13玉 14飛 同玉 G まで 73手。

参考図2の解2

A B 13飛成 同玉 15香 14飛 同香 24玉

B 25飛 13玉 E 34飛 24飛 同飛 13玉

15飛 14香 25桂打 24玉 14飛 同玉 13桂成 同玉 C D F G まで 67手。

角か桂を1枚減らすと各々2解あるのが、角桂の2枚を加えると唯一解となるのが不思議であるが、重複が15手もある組み合わせによって単純な加算よりも手数が2手伸び、唯一解となった。

【解説】

狭い空間でできるだけ多く王手を掛け続けよという問題。初形では玉の動ける場所は2箇所しかなく、王手を掛けられる駒も飛だけ。どこかで桂を使って手数を伸ばすにしても、このままでは明らかに限界があります。

最初の10手はこの状況を改善するために13香を消す序奏です。これで玉の動ける箇所は3箇所に増え、香が使ってサイクルを長くできるようになりました。

ただ、玉の可動域はこれ以上増えません。飛と香の駒繰りでも20手程度稼ぐのが限界なので、次の打開策が必要になります。

それが11に眠っている角の活用。この時に22角不成で行くのが細かい配慮で、13角不成とした時に14玉と逃げる手数稼ぎを可能にします。

ただ、この角は手数稼ぎのサイクルに加えることはできません。36角で合駒請求すると、その角が盤上に残ってしまうので、王手継続の邪魔になってしまうのです。つまり、角を使うのは最後の最後になるわけです。

この後は、飛と香の駒繰りに戻るわけですが、桂を犠牲にして1度サイクルを増やします。

もう一度、飛と香の駒繰りを行うと、とうとう手段が尽きました。遂に角を使わざるを得なくなり、収束手順に入ります。

作者は本局の創作でいろいろなパターンを試しており、作者自身の解説で詳しく述べられています。本局では手数伸ばしのため、メインサイクルに角と桂を絡ませているのですが、どちらか一方だけでは非限定が生じるのに、両方入れると非限定が消えるという不思議な現象も報告されています。天使詰の奥の深さを感じさせられますね。

なお、作者の解説文中に出てきた **fmag64.exe** は神無次郎氏による天使詰を検討するためのプログラムです。天使詰を扱う機能は **fmza** には組み込まれておらず、別プログラムとして開発されています。**fmag64.exe** を使いたいという方は、(神無次郎氏ではなく)担当までメールでご連絡をください。

【短評】

井上順一さん(※無解)

いろいろとやってみたが、作意手数の半分にも到達できなかった。

☆井上氏の到達した解は以下の順です。

34 飛 24 飛 同飛 同玉 25 飛 14 玉
15 飛 24 玉 13 飛成 同玉 15 香 14 飛
同香 同玉 34 飛 24 飛 同飛 13 玉
22 角生 24 玉 13 角生 14 玉 34 飛 24 飛
同飛 13 玉 14 飛 同玉 34 飛 24 飛
同飛 同玉 25 飛 13 玉 15 飛 14 角
同飛 同玉 36 角 25 銀 同角 24 玉
15 銀 13 玉 14 銀 24 玉 16 桂 まで 47 手

☆作意は16手目香合で手数を稼ぐのですが、まずはそこが第一の関門だったようですね。担当としてはどこで解答者が躓いたか分かるので、未達成の解答でも、何も言及がない無解より有り難いです。

たくぼんさん(※無解)

解けないですね。

かなり考えましたが、97手が精一杯でした。出来た！と思ったら同一局面ありに泣いて・・・の繰り返し。

【解答】

83 角打 49Q 65 飛 29Q 85 飛 49Q
45 飛 まで 7 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
	角								三
角									四
				飛					五
					王				六
						糸			七
						銀			八
			ス	〇					九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

【作者のコメント】

バッテリー再構成ではありますが、初形で既にあるバッテリーのコンビで再構成するのは珍しいかもしれません。飛を遠ざけるほうが得になるのが少し面白いでしょうか。

【解説】

Queen (Q) は非常に強力で、捕まえるのが大変な駒です。ただ、解き慣れた解答者だと、その強力さを逆手に取り、詰型や詰手順を絞り込むことができます。

本局では 27 歩や 94 角等の配置から 49Q という詰位置が想定可能ですし、94 角に紐を付ける 83 角打の初手も容易に想定できます。

ただ、3 手目いきなり 47 飛としても、38Q や 29Q と受けられて詰んでいません。手順の流れに乗って 29Q 以下の紛れを読み進めて、泥沼に嵌った方もいると思います。

ここで冷静になって、29 や 38 には既に初手に打った角が利いていることを思い出してください。4 手使って飛の位置を変えれば、両王手を掛けても角筋を遮らずに済むことに気付いた時には小躍りしたくなるでしょう。これが作者のコメントにある「バッテリー再構成」です。

開き王手で開く駒の位置を変える手順は、中長編で大仕掛けを使って行われることが多いのですが、本局はこれを短手数で洗練された配置で実現しています。こうした作り方は最近の短

編の一つのトレンドではありますが、実際にそれを作品化するには優れた創作センスが必要で、本局は作者の腕前がよく分かる作品だと思います。

なお、Qを両王手で詰める筋に関して、作者は様々な表現を試みています。以下に紹介する2つの図はいずれも上谷直希氏の作品です。

【参考図1】WFP61-5 (2014年3月)

クイーン王協力詰7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								〇	一
									二
			糸						三
									四
							銀		五
									六
					飛		角		七
									八
									九

持駒 角
(※Q=クイーン王)

【参考図2】フェアリー時々詰将棋

2016年3月9日「クイーン：自作集」

(<http://fairypara.blog.fc2.com/blog-entry-43.html>) より

協力詰7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
			角						四
									五
						飛			六
								ス	七
								〇	八
									九

攻方持駒 角
受方持駒 なし
※Q:Queen王

本局は WFP61-5 や、その改良版を更に発展させたものと考えられます。順に追っていくと

「バッテリーの構築」(WFP61-5)
 →「バッテリーの再構築」(クイーン：自作集)
 →「位置を変えたバッテリーの再構築」(本局)

と、徐々に凝った表現に発展したことが分かります。本局はいきなり空から降ってきたものではなく、着実な積み上げから生まれてきた作品なのです。

【短評】

占魚亭さん

完璧な構成で惚れ惚れします。傑作。

井上順一さん

初手に角を打ってからの飛と Q の動きがすばらしい。

変寝夢さん (※無解)

8 3 角は一目だったが、普通に隅に追いやる展開を選択してしまった。
 そんなはずはないのになあ。

たくぼんさん

角の利きを遮り両王手を狙う手順が素晴らしい。初手が入ったのがさすがです。

■ 107-7 青木裕一氏作 (正解 2 名)

安南最善詰 27 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				と		と		王	一
									二
								王	三
					飛				四
				と				歩	五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 歩4
 受方持駒 なし

【ルール】

・安南

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

・最善詰

攻方は受方がなるべく早く詰むよう王手を掛け、受方はなるべく詰まないよう応じる。(補足)

・いわゆる普通の詰将棋から枝葉 (無駄合概念や、駒が余るかどうかで手順に優劣を付ける規則) を取り除き、攻方最短を義務化したもの。攻方最短・受方最長のみが正解で、長手数之余詰は不問。

【解答】

24 歩 13 玉 23 歩成 同玉 43 歩 33 歩
 同歩成 同玉 32 と 同玉 33 歩 同玉
 43 歩 32 玉 42 歩成 23 玉 43 歩 33 歩
 同歩成 同玉 43 歩 32 玉 13 歩成 33 玉
 43 と 32 玉 22 と まで 27 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					と			王	一
							王	と	二
					と				三
					飛				四
					と			歩	五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
 受方持駒 歩3

【変化】

- ・2 手目 33 玉は下の変化に短絡。
- ・12 手目 23 玉は 24 歩、33 玉、43 歩、32 玉、23 歩成、31 玉、42 歩成迄。

【作者のコメント】

創作の動機は持駒を受方に渡すことによる打歩詰打開。最終的に歩で局面を打開していく感じになりました。

ルールは安南詰でも(検討した範囲で)完全ですが、2 手長い最終手余詰があるので、安南最善詰にします。

【解説】

安南に慣れた人なら、条件反射で飛の前に歩を打ちたくなる初形ですが、本局でそれをやると大失敗。受方には持駒がないので、いきなり打歩詰になってしまいます。

冒頭4手で歩を渡すのは、その対策。つまり打歩詰回避のための持駒譲渡です。

持駒譲渡は協力系ルールでは目にしますが、対抗系ルール、しかも「安南」という性能変化ルールでこれが可能だとは、ちょっと驚きです。

この後も飛頭歩絡みの応酬は続きます。

5手目ようやく43歩が実現しましたが、9手目再び43歩が打歩詰になります。今度は32とから33歩で打歩詰を打開。二度目の43歩を実現します。

ここからは玉の包囲網の構築です。

43歩をと金に変えた後、すぐに43ととせず、21手目4度目の43歩を打つのが巧妙な手順。

「42と」が歩の性能になるので、これは打歩詰ではありません。8手目と20手目の局面を比べると、「31と」が「42と」に変わっているわけですが、この置き換えの効果が最も良く現れる局面です。23手目13歩成は開き王手のような感触ですが、性能変化した歩と、性能変化が解けたと金が同時に働く安南でも最も華麗な決め手。最後はと金2枚の包囲で玉を捕らえます。

本局は安南詰での持駒譲渡という新手筋だけでなく、その後も歩を中心とした様々な手筋が登場し、統一感と多様性の共存する素晴らしい作品になっていると思います。

【短評】

占魚亭さん

一歩渡す序が上手く、収束の13歩成が気持ちいい。

変寝夢さん（※無解）

24歩、23歩成、同玉、43歩、33歩、同歩成、同玉、32と、同玉、33歩、同玉、43歩、32玉、辺りを読んだが分からない。

たくぼんさん

相手に歩を渡す不思議な頭4手から安南とは言え不思議な感覚の手順が続く。新感覚の佳作。

■ 107-8 占魚亭氏作（正解2名※実質1名）

AntiAndernach協力自玉詰6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
						王			五
									六
	■								七
							王		八
									九

攻方持駒 飛
受方持駒 角2
※■:Imitator

【ルール】

•Imitator（■またはI）

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。このImitatorが駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

•AntiAndernach

駒を取らない盤上の移動（駒を取る及び持駒を打つ以外の着手）を行うと、着手後に相手の駒となる（玉を除く）。

（補足）

- 細則はAndernachと同様で「駒取り」を「駒を取らない盤上の移動」に読み替える。
- 1)駒を取らない盤上の移動で二歩になる場合相手の駒にならない
- 2)駒の向きの転換は成生の選択の後に行われ、成生の選択権は駒を取った側にある
- 3)駒を取らない盤上の移動の場合に限り、8段目への桂の不成、9段目への桂香歩の不成が可能（二歩の例外を除く）

•協力自玉詰

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【解答】

96 飛 37 角 38 王 [I97] 28 角生転 [I88]
39 角転 [I99] 49 角 まで 6 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
飛					王				六
									七
						王			八
■					馬	馬			九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

【作者のコメント】

角の連続転が狙いですが、IM の位置関係を考えればすぐ見えるのでやさしいと思います。

余詰消しのための使用駒制限が残念な所ですが、こればかりはどうしようもなく。

【解説】

本局の主眼である「連続転」、4 手目と 5 手目は何度見ても不思議な応酬です。王手を解除するために攻方の駒を増やす 4 手目。王手をするために攻方の駒を減らす 5 手目。普通は逆じゃないかと思ってしまいます。Imitator が生み出すマジックですね。

これに比べると、初手と 2 手目はまだ普通に感じられます。Imitator が双方の玉から離れた位置にあるので、離れた位置から 96 飛と王手することで、2 手目の 37 角のような玉に近い位置の応手が可能になるわけです。とはいえ、37 角は逆王手なので指すには勇気が要りますね。次の 38 王で王手が継続できることを見据えないと指せない手です。

角の「連続転」の目的は、攻方玉の包囲と九段目への Imitator の運搬です。Imitator を最下段に押し付けて、攻方玉を下がれないようにするわけです。最終手の 49 角は飛の王手を受けると同時に、逆王手を掛けているわけですが、攻方玉から見ると壁の向こうから狙い撃たれているようなもので、防御のしようがありません。なお、4 手目は不成としないと 5 手目が逆王手になるので最下段への移動ができません。細心の注意を払う必要がありますね。

改めて手順全体を振り返って見ると、攻方で王手を掛ける駒は常に飛、受方の応手はすべて角でした。この対比も面白いですね。

なお、受方持駒制限がないと例えば次のような余詰が生じます。

45 飛 88 飛 39 王 [I98] 28 飛成転 [I38]
27 龍転 [I37] 38 金 まで 6 手

受方持駒に飛さえなければ余詰は生じないので、飛を邪魔にならない所(受方 45 飛等)に置く案もありますが、もしそうしていたら紛れが更に増えて、正解者なしになっていたかもしれません。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

角の動きから受ける趣向感は半端ない。特に 3 9 角生は久々に妙手感を覚えた。以前にも感想で書いたが、アンチ Andernach と imitator は本当に相性がいいとつくづく感じる。

たくぼんさん

これは面白かった。
37 角の王手で返すのはビックリ。

☆本局と次局の作者以外の正解者はたくぼんさんのみ。特に本局に正解を入れたのはお見事です。

■ 107-9 占魚亭氏作 (正解 2 名 ※実質 1 名)

AntiAndernach協力詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
■									二
									三
						王			四
									五
								王	六
									七
									八
									九

持駒 香
※■:Imitator

【解答】

18 香 91 飛 14 王[182] 16 玉[181]
25 王[192] 11 飛転[112] 36 王[123] まで 7 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								飛	一
									二
							■		三
									四
									五
						王	王		六
									七
								香	八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

神無太郎氏作(104-1)と被った素材を大改造。狙いは飛とIMの大移動です。

双方の玉が動きますが頭2手は見えみえですし、これが分かれば飛香両王手の詰上りもひと目ですから、やさしいと思います。

【解説】

神無太郎氏の104-1は飛を壁駒として発生させ、不成で大移動させる作品でした。本局もまた、飛を壁駒として発生させ、Imitatorを連れて大移動させる作品です。

ただし、本局には104-1とは違った狙いがあります。ルールにAntiAndernachが加わっているので、受方の駒として発生した飛が、途中で攻方の駒になります。そして双方の玉の動きと絡めて、巧妙に両王手の形を作ります。それもただの両王手ではありません。飛と香による上下からの両王手です。普通詰将棋ではあり得ませんし、フェアリーでも結構珍しい詰上りです。

本局の手順の特徴は玉で王手を掛ける手が多いことです。特に5手目は玉の直接王手です。普通は玉で直接的な王手を掛けることはできませんが、Imitatorがあると一方の玉が他方の玉に一方向的に王手を掛ける状態を作り出せます。しかも6手目11飛転[112]では立場が逆転し、攻方玉が受方玉から逆王手を食らっています。

AntiAndernachでは玉は「転」の例外なので、手順に「転」はあまり出なくなっていますが、玉の動きの面白さで「転」の不足を充分補っていると思います。

【短評】

変寝夢さん(※無解)

2手目の91打までは絶対なので残り4手と頑張りましたが、ダメでした。91角の筋しか思い浮かばなかったのが敗因。

たくぼんさん

王で王手や上下からの両王手と内容盛り沢山でした。

■ 107-10 変寝夢氏作(正解3名)

All-in-Shogi協力自玉詰8手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				割				母	一
									二
									三
									四
									五
						飛			六
龍									七
									八
馬								偶	九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし
※偶: 不動王

【ルール】

• All-in-Shogi

双方とも、自分の手番のときに相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも1手前の局面に戻すような着手は禁手とする。(WFP122号参照)

(補足)

- 1) 相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない
- 2) 相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる

• Dummy (偶)

自分では動かない駒。

【解答】

57 龍 55 角生 91 角 17 龍 11 龍 41 飛
55 香 53 香成 まで 8 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬				龍	龍			龍	一
									二
			杏						三
									四
									五
									六
									七
									八
								偶	九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

【作者のコメント】

狙いは最終手。

角は先手に動かされることを考えて9 1に移動しなければならない所が中立駒に似ている。

【解説】

「盤の四隅を見よ」は将棋の格言。広い視野を持ってという意味ですが、本局は文字通りの意味で盤の四隅を見る必要があります。

詰める対象は19地点の自玉。不動玉なので、王手さえ掛かれれば簡単に詰みそうです。でも、気をつけるべきはこれが All-in-Shogi だということ。せっかく王手を掛けさせても、王手駒を逃がす応手が残っているのは詰みになりません。困ったことに本局の使用駒は香を除いて大駒ばかり。All-in-Shogi で詰めるには不向きです。

でも手段がないわけではありません。角を盤隅に置けば、その角の利き筋を逸らすことはできません。つまり、91角で詰ませばよいのです。これは中立駒でよく見る手筋ですが、中立駒も All-in-Shogi も「どちらからも動かせる」という共通の性質を持つので、互いに流用できる手筋があるわけです。

初形で角は99地点にいるわけですが、これは All-in-Shogi なので角の引越しも簡単。99角の91への引越しは3手目で早くも完了してしまいます。

後は角筋を通す作業になりますが、4手目56飛では詰みません。攻方の龍を46や37に動かして合駒しても良いですし、55飛と受方の飛を

合駒代わりにする手もあります。

これを一度に解決する良い方法があります。それがもう一つの盤隅の利用です。4手目17龍で龍を1筋に回し、11から王手します。この状態なら龍を合駒に使うことはできません。41飛で今度こそ角筋を通すことができます。

もし11に成香が置いていなければこれで話は終わりなのですが、あいにく持駒に香が加わってしまいました。今度はこの香が邪魔になっています。

持駒が邪魔駒という状態は協力自玉詰では頻繁に生じます。たいていは持駒を捨てることによって解決するのですが、本局ではその手は使えません。仮に「55香 同角」などとすると、せっかく隅に置いた角が中央に出てきてしまい、角を動かす受けが生じます。

ここで作者の狙いの秘策が登場します。

55香を取るのではなく、「53香成」と移動するのがその秘策。王手が消える唯一の動かし方は53香成だけ。小駒が成るとどれも金の動きになるのが将棋のルールですが、それを上手く利用した一手です。

これでもう攻方に合駒できる駒はありませんし、41飛はピン止めされているため、受方の駒で角筋を止めることもできません。とても強く印象に残る詰上りですね。

本局は盤を大きく使い、四隅と中央を活用する豪快な手順が楽しめます。もしかしたら、将来 All-in-Shogi の紹介記事で頻繁に引用される作になるかもしれません。

【短評】

井上順一さん

All-in-Shogiらしい展開と思ったら9手目46飛がある。これを防ぐには11龍を最後の王手にするしかなさそうで、6手目の41飛で12龍(非限定)として以下55香(非限定)53香成11龍41飛とすれば46飛ができないので詰むが10手かかってしまう。

☆短評は以上のようになっていますが、解答自体は正解でした。41飛はピン止めされているので、9手目46飛とされる心配はありません。少し迷いましたが、解答は合っているので正解として扱います。

たくぼんさん

盤面いっぱい使ったダイナミックな手順。
ALL-in-Shogi の面白さを堪能しました。

(2019/2/21 追記 神無七郎)

【告知】WFP107-10 は不詰

今月の結果発表の WFP107-10(変寝夢氏作、All-in-Shogi 協力自玉詰 8 手) は不詰でした。結果発表後、解答者のお一人である井上順一氏から以下のような指摘を戴きました。

「41 飛はピン止めされているので、9 手目 46 飛とされる心配はありません。」とありますが、ここは攻方の手番なので 46 飛は可能だと思います。
この手は 107-11 の作意 3 手目の 87 歩成と同様の手だと思います。

確かに仰る通りで 107-10 は不詰となります。ご指摘に感謝すると共に、誤った思い込みで井上氏に失礼な解説を書いていたこととお詫びします。

また今回の解答者のうち、上記理由で 107-10 を不詰と判定され、無解となった方がいらっしゃいましたら担当までご申告ください。解答成績に加算し、成績表を訂正したいと思います。

なお、作者から以下の修正図が届いています。手数が伸び、手順も変わっているので、ぜひご一考ください。

■ 107-10 修正図 変寝夢氏作

All-In-Shogi協力自玉詰 10手

「※偶：不動王」

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王						一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
桂									玉	九

攻方持駒 香2

受方持駒 角

(※解答は P41 に掲載)

■ 107-11 変寝夢氏作 (正解 2 名 ※実質 1 名)

All-in-Shogi協力自玉詰 8手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王			一
				歩						二
										三
										四
王										五
		飛								六
角										七
										八
										九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

【解答】

53 玉 86 歩 87 歩成 86 と 76 と 86 飛
87 飛成 86 玉 まで 8 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王			一
										二
										三
										四
		王	ス							五
		角	驥							六
										七
										八
										九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

【作者のコメント】

角のラインの中でのやりとりが狙い。

【解説】

受方持駒制限に加え、盤上は攻方の駒ばかり。尋常な手段では自玉を詰めることなどできそうにありません。All-in-Shogi の特性を利用して、速やかに受方に駒を渡し、かつ、詰型を整えねばなりません。

そういう意味で初手 53 玉は見えやすい一手ですが、問題は 2 手目。86 歩の代わりに、75 歩と打ってしまうと、次の 76 歩が生歩のまま残ってしまい、使いづらくなります。

作意は 2 手目 86 歩から、と金を作って 76 飛を取るのですが、一見まどろっこしいこの手順が「急がば回れ」の好手順だったわけです。

こうして準備万端整えてから、と金と龍の焦点に攻方玉を飛び込ませるのが、All-in-Shogiらしい決め手。直前の局面に戻す手を禁手とするルールにより玉は 95 には戻れず、珍しい形の両王手による詰みとなります。

事前に詰型を作っておいてから、玉自ら死地に飛び込む手順はリパブリカンと似ていますが、95 地点に穴が空いたままの詰上りは詰んでいる実感を得るのに少し苦勞すると思います。

【短評】

たくぼんさん

初手以外たった 3 地点でのやり取りでめっちゃ面白い手順でした。

■ 107-12 変寝夢氏作 (正解 2 名 ※実質 1 名)

協力自玉スタイルメイト 6 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

						王			一
					と				二
									三
				龍					四
				蝗					五
									六
									七
									八
						王			九

持駒 n角n蝗

※蝗:Locust

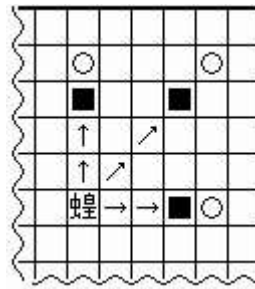
持駒角蝗は共に中立駒

【ルール】

• Locust (蝗)

フェアリーチェスの Locust (蝗)。

Queen の利きの方向にある敵駒を跳び越えその 1 つ先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る。



(○が蝗の利き。

■は敵駒。これを取って○に移動する。■が味方の駒だったり、○の地点が埋まっていたりすると跳べない。)

• 中立駒 (「區」あるいは「n 駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる (利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

【解答】

44 龍 同馬 76n 角 21n 角 59n 蝗 52-51n 蝗
まで 6 手

(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				蝗		王	角		一
									二
									三
					龍				四
									五
									六
									七
									八
					王				九

持駒 なし

【作者のコメント】

盤面中立駒 2 枚でのスタイルメイトが狙い。

【解説】

盤上攻方駒が 3 枚。持駒に中立駒が 2 枚。単純に駒を消すのではスタイルメイトにできません。しかも中立駒は動きを止めにくい駒です。スタイルメイトを実現するにはテクニックが必要になります。

注目すべきはやはり **Locust** (蝗)。蝗は跳躍台と着地先さえあれば **Queen** に匹敵する強力な駒なので、自玉を縛る中心的役割を担うことが予想されます。

一見厄介そうな本局ですが、実はそうでもありません。「52 と」をどうやって消すかを最初に考えれば、半自動的に答えを得られます。

52 とは玉から遠いため直接王手できません。そこで蝗のジャンプで取って貰います。跳んだ蝗は 51 地点に着地するので、自玉への王手になっています。これを防ぐには前もって 41 か 21 地点を埋める必要があります。

持駒の中立角を使えばどちらを埋めることも可能ですが、最後にスタイルメイトになる形を考えると 21 を埋めるしかありません。

初形では 54 龍が 21 を埋める邪魔をしているので、龍を消去→角で 21 を埋める→蝗で 52 とを消去・スタイルメイトの達成、という順序も自然に決まります。また、馬の 22 への利きを保持するため、龍の捨て場所も 44 に限定されます。

なお、初形で馬が 5 筋にいるのは、中立角を使って「27n 角 54n 角生 76n 角 21n 角」のようなやり方で龍を消す余詰を防ぐためです。中

立角が大活躍するので、こちらを作意にするような作り方もありそうですね。

念のため、最終形がスタイルメイトになっていることを確認しておきましょう。

51n 蝗は右方向以外に跳躍台がなく、右方向も跳び先が埋まっていて動けません。21n 角は動くとき王手になるので動けません。いわゆる「ピン止め」状態です。31 玉は 21・41・42 に動くと蝗に取られ、22 に動くと馬に取られ、32 に動くと中立角に取られるのでどこにも動けません。確かにスタイルメイト成立です。

本局はそれほど難解だとは思えないのですが、作者以外の解答者はわずか 1 名でした。フェアリー駒が使われているために、そもそも解こうとしなかったのか、これ以外の問題が難し過ぎてこの問題にまで辿り着けなかったのか……いずれにしても少し寂しい結果です。

【短評】

たくぼんさん

邪魔龍消して、持駒打って引いて、打って引いて いいリズム。



【総評】

変寝夢さん

とっつき易い作が多かったように思います。

たくぼんさん

全解いけるかと思ったんですが、一乗谷作が解けませんでした。

解けそうで解けないんだよなあ。

☆全題正解こそ逃しましたが、久々にたくぼんさんの剛腕炸裂ですね。この活躍がなければ「実質正解者ゼロ」の作が大量に出てしまうところでした。

Pontamonさん

107回は掲載期間が長いため、みなさん難問ばかりをぶつけて来た感じがします。
お手上げです。

☆今月の上旬から花粉が飛び始めました。筆者にとっては苦行の季節の始まりです。もう既に症状が出始めているのですが、担当業務への影響を最小限に抑えるよう頑張ります。

以上



フェアリー版くるくる作品展 9 解答

今回のフェアリー版くるくる作品展 9。くるくる作品展史上最易の作品群ということでたくさんの方の解答が集まると期待しておりましたが、蓋を開けてみると、解答者僅か 2 名という寂しい結果となりました。何が問題だったのでしょうか・・・。

【解答者】(○：全題正解)

○橋本孝治、○井上順一

くるくる 16 神無太郎作

安北ばか自殺スタイルメイト 35 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
			桂	桂	桂				二
			香		糸				三
			飛		飛				四
				桂					五
									六
									七
									八
									九

持駒 歩17

【安北】

味方の駒が縦に並ぶと、下の駒の利きは上の駒の利きになる

【ばか自殺スタイルメイト】

先後協力して最短手数で、攻方の王を王手は掛かっているが、合法手のない状態にする。

63 歩 「43 歩 同歩 63 歩 同歩」×8

43 歩 同歩 まで 35 手

★ お詫び、出題の際、受先表記を失念してしまいました。幕開けで躓かれた方がいらっしやっただけかもしれず申し訳ありませんでした。安北ルールはたまにしか目にしないルールですので利きが判りにくかったかもしれません。初形で王手が掛かっています(63 香

は桂の利き)ので 43 の歩で取る一手。同飛は歩を打つ所が無くなっちゃいます。

最終図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				王					一
			桂	桂	桂				二
					糸				三
			飛		飛				四
				桂					五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

橋本孝治

安南と間違えて 53 歩と打ちたくなる構図。手順はありがちですが、壁越しに狙い撃つような王手が安北独特の感触です。

井上順一

出題図は攻方の 63 香により王手がかかっているため受方の手番。攻方の持駒が全部取られると、動かせる駒がなくなる。

くるくる 17 神無太郎作

Isardamばか自殺スタイルメイト 36 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
								王	六
									七
									八
									九

持駒 歩9

【Isardam】

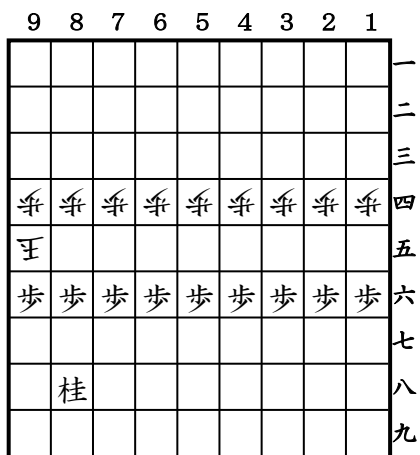
同種の敵駒の利きに入る手を禁止する。玉を取ると同種の敵駒の利きに入る場合は王手とみなさない。成駒と生駒は別種の駒として区別する

【ばか自殺スタイルメイト】

先後協力して最短手数で、攻方の王を王手は掛かっているが、合法手のない状態にする。

15 と 同玉 16 歩 14 歩 25 と 同玉
 26 歩 24 歩 35 と 同玉 36 歩 34 歩
 45 と 同玉 46 歩 44 歩 55 と 同玉
 56 歩 54 歩 65 と 同玉 66 歩 64 歩
 75 と 同玉 76 歩 74 歩 85 と 同玉
 86 歩 84 歩 95 と 同玉 96 歩 94 歩
 まで 36 手

最終図



持駒 なし

橋本孝治

すべての筋で歩が睨み合い、一触即反則状態を作り出す。対峙する歩が元は攻方の歩だというのが良いですね。今回の3作でこれだけ「消去」でないのも面白いです。

井上順一

最初の4手がわかれば、あとはその繰り返し。桂1枚で手順が限定されている。

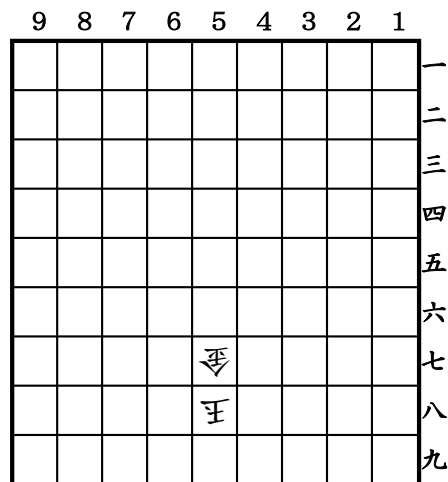
★井上さんの解答表記は

$\Sigma(n=1\sim 9)(n5 と 同玉 n6 歩 n4 歩)$ まで 36 手 でした。面白いですね。

★ちょっと早い 2019 年年賀詰作品展の七郎さんの作品にも出てきた筋を1~9筋で行います。と金を捨てる順が入ったのが大きく作品価値を高めました。くるくる級趣向としては申し分ない作品と言えましょう。

くるくる18 神無太郎作

対面天使詰 37手



持駒 桂歩18

【対面】

敵駒と向かい合うと、互いに利きが入れ替わる

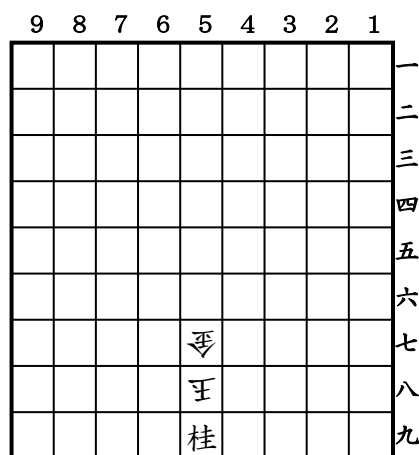
【天使詰】

先後協力して最長手数で受方玉を詰める。

「59歩 同玉 58歩 同玉」×9

59桂 まで 37手

詰上図



持駒 なし

橋本孝治

天使詰の簡素図は作りにくいと思っていましたが、対面ルールと利きの小さい持駒を使えばそれも可能なんです。

井上順一

王手が続くように考えるとこれしかない。

★解説しようが無いのですが（笑）歩が打てる
ところがこれしかありません。桂を 59 に打
つと詰んでしまいますので、先に歩を全て消
去するのが最長手順になります。

【総評】

橋本孝治

35→36→37 と一手ずつ増える珍しいセット
出題。くるくる 17 が一番のお気に入りです。

★ 今回は問題が易しく、解答略記も出来たの
ですが解答者が伸びず。シンプルなルール
で易しい方が良いのか？いろいろ考えない
といけません。投稿お待ちしております。



(問題図は P35 をご覧下さい)

■ 107-10 修正図 変寝夢氏作 解答

All-in-Shogi協力白玉詰 10手

				割					一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
桂								偶	九

攻方持駒 香2
受方持駒 角
※偶:不動王

【解答】

59 香 55 角 99 角生 54 桂 46 桂 55 角生
91 角 58 桂成 55 香 53 香成 まで 10手
(詰上り)

				割					一
									二
				杏					三
									四
									五
									六
									七
				手					八
				香				偶	九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

【作者のコメント】

控えて打つ 5 4 桂と、4 6 を塞いでから 9 9
角を動かす所は面白いと思います。

なお頭 4 手は着手後左右対称です。

香を 5 8 に打つと最後後手の持駒に香が入
り、最終手に対して、後手香を打って逃れです。

以上

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2019年3月15日(金)

第108回 WFP 作品展

フェアリー作品 11題

推理将棋 1題

第108回 WFP 作品展特別出題

フェアリー作品 2題

Fairy of the Forest #58

協力詰 3題

2019年4月15日(月)

第109回 WFP 作品展

フェアリー作品 11題

推理将棋 1題

作品募集締切一覧

2019年4月14日(日)

第50回神無一族の氾濫

課題：対称性を主題とした作品

投稿先：神無七郎 (k7ro.ts@gmail.com)

詳細は P12 をご覧下さい

あとがき

小西寛 安南詰全集

前号で紹介しました「小西寛 安南詰全集」が届きました。



製本版が300円という破格の安さですが、届いた本は実に立派なものでした。これは買いの1手です。佐藤さん赤字になるのではと心配になりますね。

製本版が必要な方は実費 ¥300 にて配布されていますので、郵便振替「01380-2-107692」加入者「佐藤達也」までとのこと。

たくぼん

2019年 第128号

Web Fairy Paradise

非売品

平成三十一年二月号

平成三十一年二月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先

須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp